

一関地区かわまちづくり計画（案）

令和2年1月

一関市

目 次

1. 市町村及び河川の概要	2
①市の概要	2
②市内の河川の概要	2
2. 水辺とまちづくりに関する基本方針	8
①一関市の上位計画の概要	8
②かわまちづくりのテーマ	14
3. ソフト施策の個別施策計画書	16
4. 支援整備内容の概要（ハード施策）	18
5. ハード施策の個別整備計画書	20
①磐井川緑地周辺エリア整備	20
②要害・中里エリア整備	22
③一関水辺プラザ整備	23
④一関地遊水地地内湛水池エリア整備	24
6. 整備の必要性、有効性	26
7. 整備の実現方策	27
8. 推進体制	28
9. 有効利用及び維持管理	28
10. 特徴	29
11. その他特筆すべき事項	30

1. 市町村及び河川の概要

1. 市の概要	
①都道府県名	岩手県
②市区町村名	一関市
③人口	116,260人(2019年6月1日現在)
④面積	1,256.42km ²
⑤市の特色	<p>一関市は、岩手県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接しています。首都圏から450kmの距離で、東北地方のほぼ中央、盛岡と仙台の中間地点に位置しています。古くから交通の要衝として栄え、岩手県南、宮城県北地域の中核としての役割を担ってきました。</p> <p>北上平野の南端部にあたる市の中央部には標高の低い平地が広がり、東北一の大河北上川が緩やかに流れています。北上川の支流は、西から磐井川、金流川、東から砂鉄川、千厩川、<small>きのみがわ</small>黄海川などが注ぎ込み、流域に水の恵みをもたらしています。磐井川の中流域には溪谷美を誇る<small>げんびけい</small>厳美溪、砂鉄川には石灰岩地帯を深く刻み込んだ<small>げいびけい</small>猊鼻溪があり、多くの観光客が訪れる名所となっています。</p> <p>市内には、JR東北新幹線、東北本線、大船渡線の3路線が通じており、一ノ関駅が各路線の拠点駅となっています。平泉町(世界遺産平泉)や仙台市方面に向かう路線として利用される東北本線は市内に5か所の駅が設置され、また、気仙沼市方面に向かう大船渡線は、猊鼻溪、千厩といった観光地の利用駅となっています。</p> <p>当市では、岩手県南から宮城県北に至る地域を中東北というくくりでとらえ、それぞれの地域が互いに競い合いながら圏域全体で発展していくことを目標に、「中東北の拠点都市一関の形成」をスローガンとして掲げ、市政運営を進めています。</p> <p>また、宇宙誕生の謎などを研究する国際研究施設「国際リニアコライダー(ILC)」の建設候補地に、当市を含む北上高地が選定されており、「ILCを一関発展の基軸とした未来の姿を見据えたまちづくり」を進めています。</p>
2. 市内の河川の概要	
①主な河川	<p>◆ 磐井川(一級河川北上川水系 流域面積約301km²、流路延長36.3km(直轄区間6.9km、指定区間29.4km))</p> <p>磐井川は、奥羽山脈の栗駒山に源を發し、<small>すかわおんせん</small>須川温泉など山腹から流れ出る強酸性泉の影響を受けながらも小さな沢や支流により希釈・中和されながら国道342号に沿って東流し、途中、<small>こいのおかがわ</small>小猪岡川、<small>くぼがわ</small>久保川などの二次支川を合わせ、<small>こぜんじ</small>狐禅寺地区において一級河川北上川に合流する県南屈指の一級河川です。</p> <p>上流域は、岩手、宮城、秋田、山形の四県にまたがる栗駒国立公園に指定されており、山腹にはブナ林が多く、山頂付近では高山植物が多くみられます。</p>

中流域では温泉が湧出し、一関温泉郷として親しまれています。また、河岸段丘に河畔林が多く、名勝・天然記念物「巖美溪」に代表される溪谷美となっており、イワナやヤマメなどの溪流魚も多く生息しています。

下流域の一関市街地は、昭和 22 年、23 年のカスリン、アイオン両台風で甚大な被害を受けましたが、川幅の拡張、護岸工事などが順次進められ、現在は、堤防内の磐井川緑地にジョギングコースやゲートボール場等が整備され、また、春の桜まつり、夏の花火大会、秋の芋の子会、冬の白鳥と四季を通じて市民の憩いの場となっています。

②河川と市や民間事業者との関わり

一関地区のまちづくりと磐井川は切り離すことができないもので、特に昭和 22 年、23 年のカスリン、アイオン台風による大災害からの復興を経て一関地区のまちは発展してきました。

そして、市街地を守るための治水事業として進められている一関遊水地事業などの北上川上流治水対策事業により安全・安心なまちづくりが進められています。

磐井川は、景勝地として名高い名勝・天然記念物の巖美溪を形成するほか、市街地では河川公園として活用され、北上川との合流点は一関遊水地として河川を軸とした水田パノラマ景観を形成するなど、地域の景観を構成する重要な要素となっています。

また、河川空間は地域住民や民間事業者も参画して各種イベント・祭りの場として利用され、市民に親しまれています。

【一関地区河川改修のあゆみ】

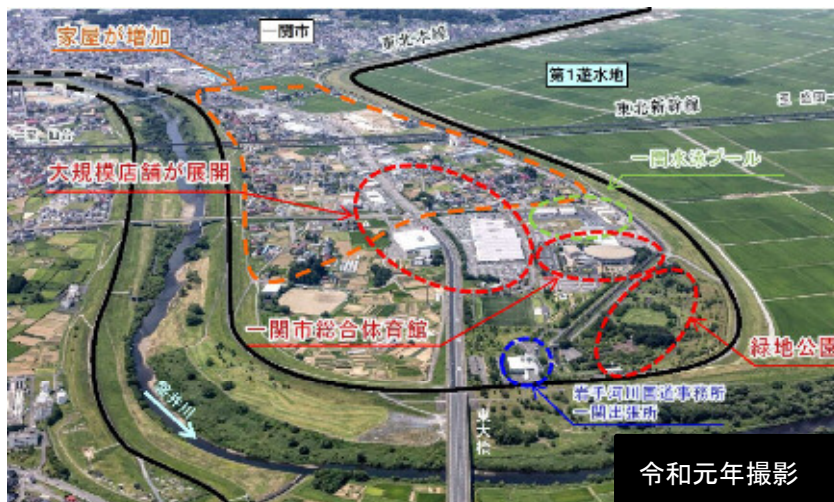
洪水との戦い

- 一関地区は、磐井川と北上川が合流する北上川下流域に非常に川幅の狭くなった区間（狭隘部）があることから、古くから水害常襲地帯として知られ、洪水のたびに大きな被害を被りました。
- 特に、戦後間もない昭和 22 年カスリン台風及び 23 年アイオン台風の洪水被害により、一関市街地は壊滅的な被害を受けました。
- しかし、市民一丸となって復興に取り組み、現在の市街地が形成されています。昭和 26 年には復興を祈念して、2,000 本の桜と梅が植樹されました。



市街地を守る治水事業

- 昭和 22 年、23 年の洪水による大水害を契機に、一関遊水地が計画され、一関遊水地事業、磐井川堤防改修事業により治水事業は一定の効果を発現し、前堀地区では公共施設やショッピングセンターの立地など土地利用が高度化し、世帯数も増加しました。



③これまで実施済みの関連施策

◆磐井川緑地（一関市）

磐井川高水敷の「磐井川緑地」は市民のスポーツ、レクリエーション、イベントにも利用できる緑地公園として多目的広場、トリムコース、遊具、水飲み場等を整備した。

◆磐井川堤防桜堤（一関市 H25～）

磐井川堤防改修に伴い伐採された桜の遺伝子を引き継ぐ桜を再生させ、新たな災害復興の証とするため、桜堤を整備した。

令和元年7月には、一関市ゆかりのフォーク・グループ「N. S. P」の代表曲「夕暮れ時はさびしそう」の舞台となった磐井川堤防にメモリアルスポットを設置した。

◆小道の整備（一関市 H25～）

市街地の回遊、散策、いこいの場として、磐井川堤防沿いに「桜の小道」を整備した。「磐井町地区（歩道）、青葉地区（街路灯、歩道、ベンチ）、田村町地区（歩道、ベンチ、水飲み場）」

また、歴史的建造物等が多く残る市道中街線を、「歴史の小道」として整備した。

（ L=421.4m W=8.0m 街路灯 24 基）



N. S. P メモリアルスポット



桜の小道



歴史の小道

◆ 一関水辺プラザ・北上川学習交流館あいぽーと（国・市 H5～H15）

北上川の歴史と文化、災害と治水等の情報を広く発信するとともに、流域内の交流を図るための北上川学習交流館あいぽーとを整備した。

また、地域の交流や体験学習の場として、河畔林や変化に富んだ水際などの自然環境を生かした水辺プラザを整備した。



北上川学習交流館あいぽーと

◆ 一関遊水地記念緑地公園（市 H5～H15）

一関遊水地事業が昭和 47 年に計画発表されてから 20 年を迎えた平成 5 年に、広く一関市遊水地事業について理解を深めてもらうため、遊水地に隣接した「桜を中心とした緑と水に親しむ施設」として一関遊水地記念緑地公園を整備した。

（子ども広場、多目的広場、一関市総合体育館等）



一関遊水地記念緑地公園

④市民や民間事業者による河川利活用状況

◆ 磐井川緑地・桜堤

春には「いわい川チェリーロードまつり」、夏には「磐井川川開き花火大会」、秋は「磐井河原いものこ会」といった様々なイベントに利用され、普段はジョギング、散歩コース、ゲートボール場などで市民を中心に多くの人々に親しまれています。

◆ 桜の小道・歴史の小道

歴史の小道は一ノ関駅周辺城下町散策ルートとして活用されています。また、田村町側の桜の小道は、夜市の会場としても活用されています。

◆ 一関水辺プラザ

普段は、パークゴルフ会場や散歩コースとして利用されています。また、近年は「一関・平泉バルーンフェスティバル」の会場として活用されており、2018年には16,500人の来場者（観覧者数120,000人）がありました。

◆ 一関遊水地・一関遊水地記念緑地公園

一関遊水地内の農用地は大区画に整備された高生産性水田農業地域として利用されているほか、本市を代表するスポーツイベントである「一関国際ハーフマラソン大会」において、黄金色の稲穂が一面に広がる一関遊水地内の田園風景を駆け抜けるメインコースとなっています。

一関遊水地記念緑地公園はウォーキング、ジョギング、バーベキューなどに広く利用されているほか、周囲堤防とあわせて市民マラソン大会のコースとしても活用されています。



■いわい川チェリーロードまつり



■一関市水防訓練



■磐井川川開き花火大会



■バルーンフェスティバル

◆磐井川等における年間イベント等スケジュール

月	イベント等名	主催等
4月	磐井川フェリーロードまつり	信金本店大通り商店街
	ぼんぼり点灯・桜のライトアップ	実行委員会
	鯉のぼり吹流し	実行委員会
	1日茶屋	磐井川まちづくりサロン
	一関高専新入生歓迎会	学校
	お花見・バーベキュー	個人 等
	一関市民マラソン大会	一関市体育協会
5月	日本ハウスHD親睦会	民間
	グラントゴルフ	一関市愛育会
	鮎の放流	一関市
6月	山目小学校遠足	一関市立山目小学校
	いきいきシニアスポーツ大会練習	一関市老人クラブ連合会
	いきいきスポーツ練習	山目地区老人クラブ
	グラントゴルフ	宿民区
7月	一関早起きラジオ体操	一関市体育協会
	一関市水防訓練	一関市水防管理団体
8月	岩手県建設業協会一関支部行事	建設業協会
	一関工業電気科OB会	民間
	ゲートホール練習	一関市老人クラブ連合会
	一関市消防団一関地域本部消防訓練予行練習	一関地域婦人消防協力隊
	一関夏祭り磐井川川開き花火大会	夏まつり実行委員会
	12ヒースラン	ホノルルマラソンクラブ
	グラントゴルフ	宿民区
	追悼法要及び流燈会	一関市社会福祉協議会
	夢灯り大会	一関夢灯りの会
	少年事業	山目市民センター
9月	一関国際ハーフマラソン大会	一関市ほか
	グラントゴルフ大会	山目地区老人クラブ
	親子写生大会	一関地方教育研究会
	いものこ会・バーベキュー	個人 等
	一関市消防団一関地域本部消防訓練	一関市消防団一関地域本部
	グラントゴルフ	JR東労組OB会
10月	グラントゴルフ交流会	あおぞら会
	体育の日 早起き歩く会	一関市体育協会
	運動会	中央民区
	ハルーンイリュージョン	一関・平泉ハルーンフェスティバル実行委員会
	精神保健ボランティアあおぞら会一般者交流会	
11月	一関地方産業まつり農業祭	一関地方産業まつり実行委員会
	山目小学校マラソン大会	一関市立山目小学校
12月		
1月		
2月	子供手作り凧揚げ大会	一関ライオンズクラブ
3月		
年間利用	ウォーキング・ジョギング	一関学院陸上部練習
	部活動練習	岩手県立一関第一高等学校
	部活動練習	岩手県立一関第一高等学校附属中学校
	グラントゴルフ練習	一関市グラントゴルフ協会
	グラントゴルフ練習3月～12月 毎週火曜、木曜	五区福寿会
	グラントゴルフ練習3月～11月 毎週月曜	幸寿会
	グラントゴルフ練習3月～11月	十二神老人クラブおもと会
	グラントゴルフ練習4月～7月、9月 毎月第三土曜日	一関地区警友会CG同好会
	グラントゴルフ練習4月下旬～10月下旬 毎月第1、第3、第5	釣親民区

2. 水辺とまちづくりに関する基本方針

1. 一関市の上位計画の概要

一関市における地域整備構想としては、まちづくりの基本方針となる「一関市総合計画前期基本計画」や、都市計画に関する基本的な方針である「一関市都市計画マスタープラン」がある他、「一関市景観計画」及び「一関市観光振興計画」を定めています。

◎「一関市総合計画前期基本計画」（2016年策定）

「みつけよう育てよう 郷土の宝いのち輝く一関」をまちの将来像として、以下の5つの目標を掲げています。

この中で、水辺とまちづくりに関する施策として、「郷土の恵みを未来へ引き継ぐ自然豊かなまち」づくりのため、周囲の自然や景観に配慮した親水空間の整備に努めるとともに、整備に当たっては市民が親しみを持てる美しい河川環境づくりに努めることとしています。また、公園、緑地等の整備にあたっては、ユニバーサルデザインの考え方のもと、誰もが利用しやすい憩いの場、潤いの場として機能の充実を図ることとしています。

さらに、「地域資源をみがき生かせる魅力あるまち」づくりのため、自然景観や地域の祭りなど特色ある観光資源と結び付けた新たな観光ルートの開拓や、熱気球を活用したイベントの充実、体験型観光の充実によるインバウンドを含む観光振興の推進施策を掲げています。

まちづくりの目標	水辺とまちづくりに関する施策
地域資源をみがき生かせる魅力あるまち	<ul style="list-style-type: none"> ○観光資源の発掘及び活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>潜在している観光資源を掘り起こし、自然景観や温泉、郷土食や伝統芸能、地域の祭りなど特色ある観光資源と結び付け、新たな観光ルートを開拓するとともに、PRに努めます。</u> ・ <u>熱気球を活用したイベントの充実と周知を図り、首都圏等からの観光客の誘致を推進します。</u> ○体験型観光の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・ ユネスコ無形文化遺産「和食」の中で伝統食文化として紹介された一関地方のもち食文化を生かしたイベント、<u>体験型観光の構築を図ります。</u> ・ <u>いちのせきニューツーリズム協議会と連携した体験型観光をはじめさまざまな体験型観光の充実と世界遺産「平泉」や沿岸被災地の防災教育と連携した教育旅行の誘致を推進します。</u> ○受け入れ体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>わかりやすい観光案内板の設置により、訪れる人、訪れたい人の視点に立った観光客の誘客に努めます。</u>
みんなが交流して地域が賑わう活力あるまち	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人にやさしいまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 一関の文化や歴史、特産品などを知ってもらうための取組として、さまざまな情報手段を活用し、地域行事を周知し参加を呼びかけるとともに、<u>イベントへの参画等の機会を設けるよう努めます。</u> ○地域づくり活動の啓発と意識醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域住民や各種団体の地域づくり活動への参加を促進します。</u>

<p>自ら輝きながら次代の担い手を応援するまち</p>	<p>○スポーツレクリエーション活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもからお年寄りまで、誰もが気軽に楽しむことができる<u>ニュースポーツやスポーツレクリエーションを普及し、市民の健康づくりやコミュニケーションづくりを促進</u>します。 <u>各種スポーツ大会の開催や大規模な競技大会の誘致に努め、競技力の向上を図るとともに、地域の活性化に結び付け</u>ます。
<p>郷土の恵みを未来へ引き継ぐ自然豊かなまち</p>	<p>○自然の保全と活用施策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアや児童生徒が行っている<u>河川の清掃活動や浄化活動</u>を支援します。 <u>周囲の自然や景観に配慮した親水空間の整備に努めるとともに、整備に当たってはホテルが飛び交う水辺の再生など、市民が親しみを持てる美しい河川環境づくりに努め</u>ます。 <p>○環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>自然とのふれあい活動や環境教育、学習の場の充実を図り、環境に対する正しい理解と環境に配慮したライフスタイルの啓発を図りながら、環境意識の高いまちづくりを目指</u>します。 自然環境の保全に関する啓発を行うとともに、自然環境への理解を深めることを目的とした<u>自然観察会を実施し、環境教育の機会の充実</u>を図ります。 <p>○公園、緑地の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>ユニバーサルデザインの考え方のもと、誰もが利用しやすい憩いの場、潤いの場としての公園、緑地等の機能の充実</u>を図ります。 <u>磐井川堤防は、桜の名所として再生</u>するよう市民とともに取り組みます。
<p>みんなが安心して暮らせる笑顔あふれるまち</p>	<p>○ユニバーサルデザインのまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者やお年寄りをはじめ、誰もが社会参加できるよう、制度的、心理的なバリアを取り除き、交流活動を促進するとともに、<u>公共施設のバリアフリー化や住宅改修への相談支援の充実</u>を図るなど、全ての人が安心して暮らせる<u>ユニバーサルデザインのまちづくり</u>を推進します。

◎「一関市都市計画マスタープラン」(2009年策定)

全体構想では、市内7地域のうちの「一関地域」の将来像として『歴史文化・自然と調和し、活力ある産業を展開する広域拠点・いちのせき』(一関市都市計画マスタープラン p58 より)を掲げ、市内外との交流・連携を促進する交通ネットワークの強化や賑わいと活力のある中心市街地の形成などを地域づくりの方針としています。

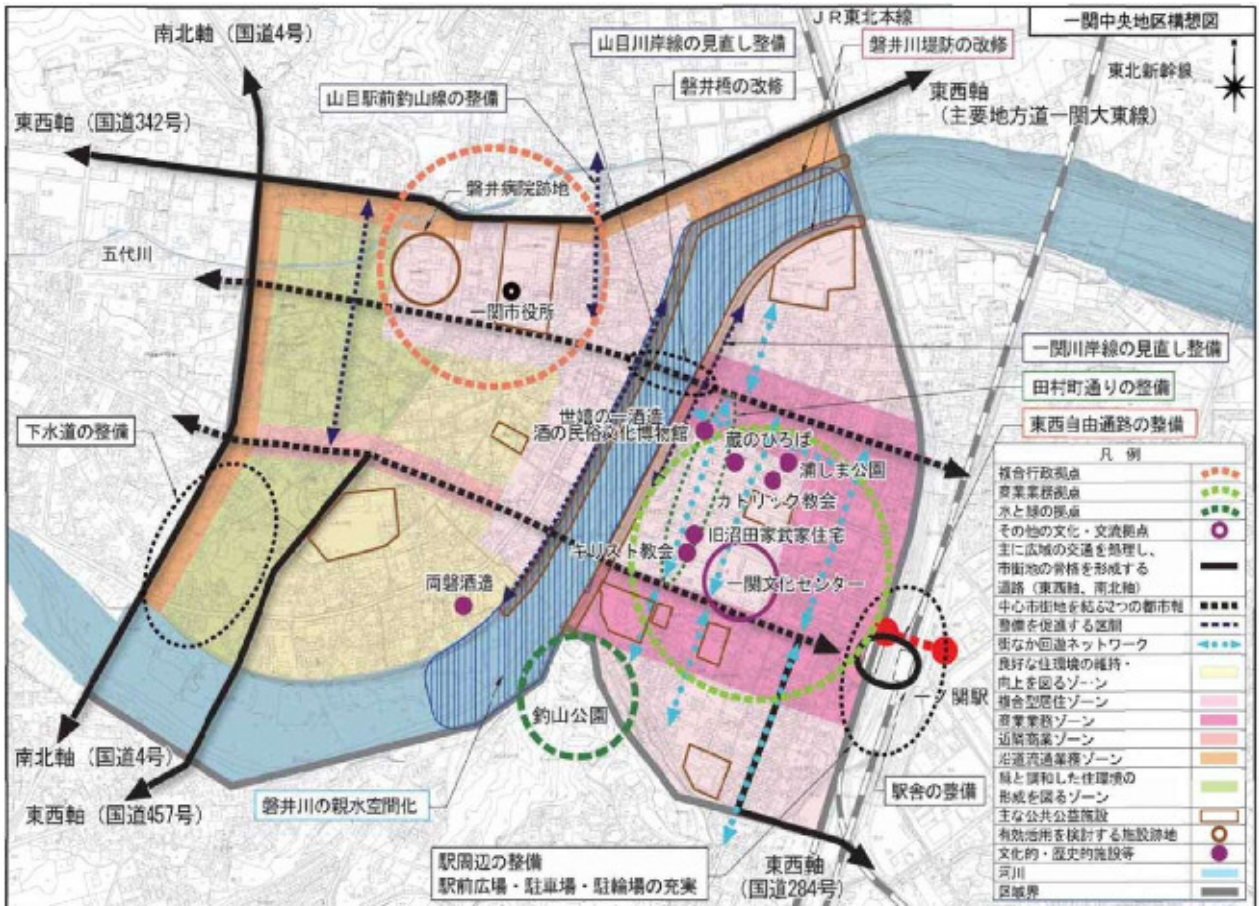
さらに、公園・緑地の整備方針として、河川と関連づけながら、市域全体の水と緑のネットワークの形成を図り、地域の特性や市民ニーズなどを検証しながら、既存の公園の再整備も含めて、市民の憩いの場となる都市公園等の整備を進めるとともに、観光・交流を促進する施設としての活用に努めるものとしています。

地区	地区の現況・課題	都市施設等の方針
一関中央地区	<p>○地区の中心部には磐井川が流れており、その高水敷は緑地として、市民が集う憩いの場として重要な役割を果たしています。</p> <p>○しかし、近年は郊外への大規模集客施設の立地や居住者の高齢化等により、中心市街地の空洞化、都市機能の低下が懸念されています。</p> <p>○一関遊水地事業に伴う磐井川堤防改修に併せて、総合的、効率的なまちづくりを検討していく必要があります。</p>	<p>○釣山公園や磐井川緑地などの、公園・緑地の管理と機能の充実に努め、水と緑の拠点として位置づけるとともに回遊ルートの設定など、<u>水と緑のネットワークの形成</u>を図ります。</p> <p>○磐井川の堤防改修にあたっては、市民の安全・安心を第一義とし、治水対策を促進します。併せて、春の桜、夏の花火、秋のいものこ会、冬の白鳥などの四季を通じて市民が憩い、<u>集え、楽しめる場として、親水空間の確保、生態系の保全</u>などに努めます。</p>
一関東部地区	<p>○無秩序な市街地拡大の抑制とともに、水辺などの自然環境の保全、公園・緑地等の整備が求められています。</p>	<p>○吸川等の清流化を図り、水に親しむ環境の整備を促進します。</p> <p>○吸川等の潤いある親水景観の形成を図ります。</p>
一関西部地区	<p>○遊水地記念緑地公園、蘭梅山、釣山公園、運動公園や尾花が森公園は、市民の身近な憩いの場として親しまれており、厳美溪や栗駒国定公園など周辺の豊かな自薦環境を活用した観光・レクリエーション拠点のネットワーク形成による地域の活性化が求められています。</p>	<p>○<u>磐井川を軸とした観光・交流ネットワークの形成等</u>、訪れた人がくつろぎ、交流できる空間づくりを進めます。</p> <p>○<u>磐井川等の親水機能の整備・充実、生態系の保全を図るため</u>、あいぼーと周辺に水辺プラザを整備し、総合体育館や遊水地記念緑地公園等と一体となった<u>スポーツやレクリエーションに親しみながら健康づくりができる保健活動拠点の形成</u>を図ります。</p>

地区別構想では、一関地区かわまちづくりエリアに含まれる「一関中央地区」「一関東部地区」「一関西部地区」において、都市施設等の方針に位置付けられた、「水と緑のネットワークの形成」、「磐井川の観光・交流ネットワークの形成、市民が憩い、集え、楽しめる場として、親水空間の確保、生態系の保全」、「磐井川を軸とした観光・交流ネットワークの形成」、「磐井川等の親水機能の整備・充実、生態系の保全」、「スポーツやレクリエーションに親しみながら健康づくりができる保健活動拠点の形成」を推進しています。

凡 例	
●●●● 地域拠点	■ 都市計画区域
●●●● 工業拠点	■ 用途地域
●●●● 水と緑を中心とした観光・交流拠点、森林レクリエーション拠点	■ 生産系緑地（農用地）
●●●● スポーツ・レクリエーション拠点	■ 保全系緑地（森林）
■ 広域交通軸（東北新幹線・東北自動車道）	■ 主要集落地
■ 東西軸	■ その他
■ 南北軸	■ 河川
■ 環状軸	■ 鉄道
■ 連絡軸	■ 行政界
	■ 旧市町村界

一関地域の土地利用、拠点機能、交流の軸の構想図
（一関市都市計画マスタープラン p61 より）



一関中央地区構想図
（一関市都市計画マスタープラン p91 より）

◎「一関市景観計画」（2009年策定、2018年変更）

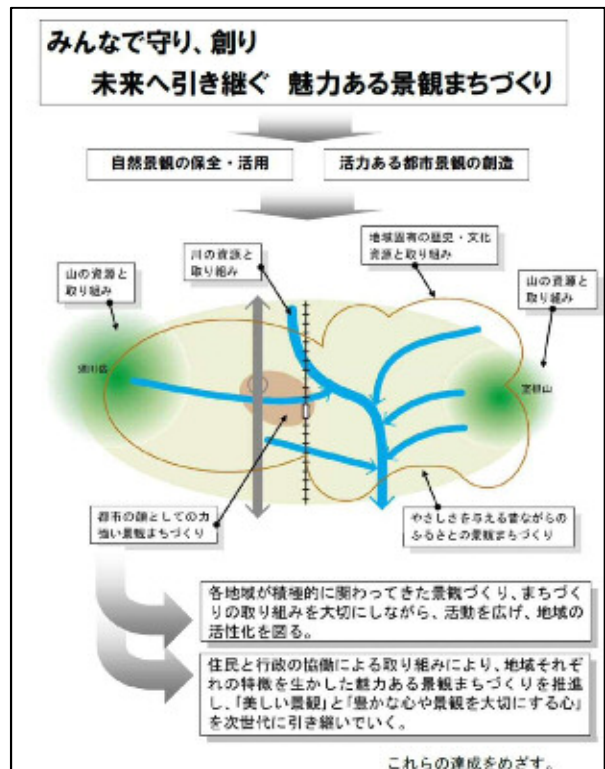
一関の特徴的な都市的景観に、磐井川や千厩川などの河川が市街地内を流れており、潤いを与える川の風景があげられています。地区別景観まちづくり方針では、一関地域は「活力ある都市と自然・歴史文化が調和する広域拠点の景観づくり」を掲げ、かわまちづくりの対象地区においては、一関市の顔として他に誇れるような河川景観を創出し、磐井川堤防の改修事業に併せ、「かわ」と「まち」がそれぞれもつ地域の景観資源や個性を生かしつつ、これらを有機的に結びつけ、交流・連携の促進、地域の活性化を図ることを基本方針としています。

対象	基本方針	整備方針
磐井川	<p>○一関市の「顔」としてふさわしい、他に誇れるような河川景観を創出し、魅力的な空間の維持・保全に努める。</p> <p>○協働の取り組みにより、潤いある河川景観を維持・保全し、活用する。</p> <p>○中心市街地のオープンスペースとして眺望景観を保全、整備する。</p> 	<p>○「磐井川桜再生計画」の基本方針と植栽配置を参考に、景観に配慮した整備を進める。</p> <p>○治水上の安全性や必要な機能を確保しつつ、できる限り周辺の景観や自然環境との調和を図ることとし、生態系の保全に配慮する。</p> <p>○構造物については、なるべく人工的な要素が周辺景観と調和するよう配慮する。</p> <p>○市民の憩いの場として、<u>利用者の安全性を考慮しつつ、親水性の高い空間づくりに配慮する。</u></p>
磐井川緑地	<p>○<u>磐井川堤防の改修事業に併せ、「かわ」と「まち」がそれぞれもつ地域の景観資源や個性を生かしつつ、これらを有機的に結びつけ、交流・連携の促進、地域の活性化を図る重要な施設の保全整備に努める。</u></p> <p>○一関市の「顔」としてふさわしい、他に誇れるような河川景観を創出し、魅力的な空間の維持・保全に努める。</p> <p>○協働の取り組みにより、潤いある河川景観を維持・保全し、活用する。</p> <p>○中心市街地のオープンスペースとして眺望景観を保全、整備する。</p>	<p>○市民の交流、スポーツ・レクリエーションの場として、快適で親しみのもてる空間づくりに配慮する。</p> <p>○市民の憩いの場として、<u>利用者の安全性を考慮しつつ、親水性の高い空間づくりに配慮する。</u></p> 
釣山公園	<p>○市街地に隣接する小高い丘にあり、市街地が一望できる視点場となっている。また、春には桜、秋には紅葉の名所として家族で楽しめる公園として市民に親しまれており、公園一帯の緑の保全を基本としつつ、眺望の保全により、良好な景観の形成に努める。また、一関藩主居館跡として地域の文化や風土に親しみ、開放的で気軽に利用できる施設の整備保全に努める。</p>	<p>○豊かで貴重な自然景観の保全を図り、市街地からの眺望対象としての景観保全に配慮する。</p> <p>○<u>市街地や磐井川を一望できる視点場としての景観保全に配慮する。</u></p> 

本地区のかわまちづくりでは、景観計画の基本方針にある、「一関市の顔として他に誇れるような河川景観を創出する」ため、磐井川堤防の改修事業に併せ、「かわ」と「まち」がそれぞれもつ地域の景観資源や個性を生かしつつ、これらを有機的に結びつけ、交流・連携の促進、地域の活性化を図ります。整備にあたっては利用者の安全性を考慮しつつ、親水性の高い空間づくりに配慮します。

また、「釣山公園」の整備にあたっては市街地や磐井川を一望できる視点場としての景観保全に配慮した整備を行います。

景観まちづくりの将来像のイメージ
(一関市景観計画 p33 より)



◎「一関市観光振興計画」(2017年策定)

豊富な観光資源や地域資源を本市の宝として磨き上げを行い、一関ブランドの確立を図りながら、魅力ある観光情報の発信に努めることとしています。また、本市を代表する観光地である厳美渓、狛鼻溪と世界遺産「平泉」を結ぶ観光ルートの定着を図ることを目標に掲げています。



観光振興戦略上の地域設定とかわまちづくりの位置関係
(一関市観光市振興計画 p36 に加筆)

- 重点取り組みとして、「市内の観光資源の再発掘と街なか観光の振興」、「食・農・観光の連携による観光地の魅力発信と誘客推進」、「特色あるイベント情報の全国発信」を掲げています。
- 一関・東山地域においては、「地元ガイドによる歴史の小道などの街散策」を重視しています。

2. かわまちづくりのテーマ

《一関地区と磐井川との関わり》

- 磐井川は、景勝地として名高い名勝・天然記念物の巖美溪を形成するほか、市街地では河川公園として、地域住民や民間事業者も参画して各種イベント・祭りの場として利用され、市民に親しまれています。また、地域の景観を構成する重要な要素となっています。
- 一関地区は、昭和22年、23年のカスリン、アイオン台風による大災害からの復興を経て発展してきた経緯があり、磐井川は一関地区のまちづくりに深く関わってきました。そして、現在も市街地を守るために一関遊水地事業などの北上川上流治水対策事業による安全・安心なまちづくりが進められています。

《計画策定の方針》

- 一関地区かわまちづくり計画では、一関遊水地事業や磐井川堤防改修と併せて、河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を図るとともに、これらと一体的な「まち」と「かわ」を結び付けた新たな河川空間の創出と活用を推進することで、「一関市総合計画前期基本計画」と「一関市都市計画マスタープラン」が目指す自然環境と調和した住み良い生活環境の整備や、市内外との交流・連携を強化することにより賑わいと活力のある中心市街地の形成を目指します。
- 計画区間は、一ノ関駅前を含む中心市街地から、一関水辺プラザを介して一関遊水地の地内湛水池に至る磐井川沿川（約5km区間）とします。
- かわまちづくりのテーマとして、本市の総合計画及びマスタープラン等に基づき、「ふれあい」、「賑わい」、「観光振興」の3つを設定します。

《かわまちづくりのテーマ》

「まち」の文化と「かわ」の自然とのふれあい

磐井川周辺一体を回遊しながら「まち」の文化とふれあい、「かわ」の自然や歴史にふれあうことで自然に対する畏敬の念を深めることのできる空間として整備する。

「かわ」の魅力を活かし、「まち」が賑わう

巖美溪や一関温泉郷などの観光名所、旧沼田家武家住宅や酒の民俗文化博物館などの歴史・文化資源を活用しながら来訪者を迎え、中心市街地であるまちが賑わうために、磐井川のさらなる魅力創出を図る。

「かわまちづくり」による観光振興

平泉・巖美溪などへの通過点から、磐井川の整備により回遊性を向上させ、城下町のまちあるきが楽しめる環境を創出します。また、祭やバルーンフェスティバル等のイベント受け入れ態勢を整備することで、一関地区の観光振興を図る。

ソフト施策の方針

- かわまちづくりによる回遊性の向上により、中心市街地の磐井川沿川に点在する旧沼田家武家住宅や酒の民俗文化博物館などの歴史・文化資源を廻るまちあるきによる観光の活性化を図ります。
- 商業関係者や環境活動関係者などが活動する地域特性を活かし、現在も行われている各種イベント・活動を河川のオープン化により更に発展的・有機的に展開します。
- 新たにイベントを企画することで、四季を通じて日常的に利用者を増加させ、地域活性化につなげます。



ハード施策の方針

- 『一関夏まつり』を代表として、年間を通じて様々な祭りや行事が行われている「磐井川緑地」では、既設の親水護岸（階段）エリアの拡大や緑地公園の整備により、魅力的な河川空間を創出します。
- 一関遊水地内の有効利用可能な「地内湛水池」を中心とした面的整備を行うことで、これまで一関水辺プラザで開催していた「一関・平泉バルーンフェスティバル」の規模拡大等、観光も含めた集客イベントへの活用を図ります。
- 磐井川・一関遊水地の堤防部分を桜堤やフットパス（散策路）で整備し、磐井川・北上川の自然や周辺の市街地・農耕地・各種施設などの多様な資源を回遊可能とすることで、多様な活動をコンパクトなエリアで行えるようになり、河川管理と地域活性化の効果的な実現を目指します。

「まち」と「かわ」を結ぶ多様な

交流活動を推進

賑わいと活力のある中心市街地の形成

3. ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
北上川水系磐井川
2. 提案事業の実施範囲
一関地区
3. 提案事業の概要
<ul style="list-style-type: none">◆ かわまちづくりによる回遊性の向上により、中心市街地の磐井川沿川に点在する旧沼田家武家住宅や酒の民俗文化博物館などの歴史・文化資源を廻るまちあるきによる観光の活性化を図ります。<ul style="list-style-type: none">■回遊性の向上によるまちあるきの機会の創出<ul style="list-style-type: none">● 城下町の面影を色濃く残す資源の多くは、一ノ関駅を含む直径1 kmの円内に存在しており、かわまちづくりにより回遊性を高めることにより、これらの資源を歩いて廻る魅力的なまちあるきの機会を創出します。■城下町の面影を色濃く伝える歴史・文化資源等<ul style="list-style-type: none">● 右岸側の主な資源 「酒の民俗文化博物館世嬉の一酒造」、「旧沼田家武家住宅」、「N. S. P メモリアルスポット」等● 左岸側の主な資源 「磐井川緑地」「桜堤」等◆ 商業関係者や環境活動関係者などが活動する地域特性を活かし、現在も行われている各種イベント・活動を河川のオープン化により更に発展的・有機的に展開します。<ul style="list-style-type: none">① 花火大会、いものこ会、春まつり等の開催② 教育委員会等とも連携した環境学習、水辺触れ合い学習会、野鳥観察会等の開催③ 桜堤堤防を活用したオープンカフェ等の社会実験の実施◆ 民間等による新たなイベント開催を誘導することで、四季を通じて日常的に利用者を増加させ、地域活性化につなげます。<ul style="list-style-type: none">① ウォーキングツアー、マラソン、自転車ロードレース等② パークゴルフ、スケートボード、BMX オフロード等スポーツイベント③ ドローン、ラジコンヘリ等の大会④ 水辺音楽祭等のイベント

一関地区かわまちづくりソフト施策概要図



4. 支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名
北上川水系磐井川
2. 整備範囲
一関地区
3. 整備内容
<p>①磐井川緑地周辺エリア整備</p> <ul style="list-style-type: none">● 年間を通じて様々なイベントや祭りが行われている「磐井川緑地」では、階段状護岸エリアを拡大するとともに、坂路の設置によるバリアフリー化により利便性の向上を図ります。また、渡河施設を安全性と景観に配慮して活用することにより、左岸、右岸の河川敷をつなぎランニングコースや散策ルート等に活用します。 <p>さらに、これらとあわせた緑地公園の再整備により、魅力的な河川空間を創出します。</p> <p>②要害・中里エリア整備</p> <ul style="list-style-type: none">● 磐井川の堤防部分や河川敷に散策路を整備し、釣山公園から磐井川緑地、水辺プラザ、遊水地千本桜、さらに一関遊水地地内湛水池までをつなぐ回遊ルートとして活用します。 <p>③一関水辺プラザエリア整備</p> <ul style="list-style-type: none">● 一関水辺プラザでは、北上川学習交流館「あいぼーと」と連携した学習体験エリアとして、カヌーや水遊びの利用が可能な緩傾斜護岸や自然観察池等の整備を行い、魅力的な自然体験やアクティビティを提供します。 <p>④一関遊水地地内湛水池エリア整備</p> <ul style="list-style-type: none">● 一関遊水地内の有効利用可能な「地内湛水池」を多目的に利用可能なスペースとして整備し、年間を通じて屋外スポーツ（パークゴルフ・スケートボード・BMX オフロード等）やアクティビティ体験等に活用します。 <p>また、市街地から離れた広いスペースを活用した、この場所でしか開催できないような、水辺音楽祭やドローンやバルーン等の競技会場として活用します。</p>
個別の整備計画は 20 ページのハード施策の個別整備計画書に記載。

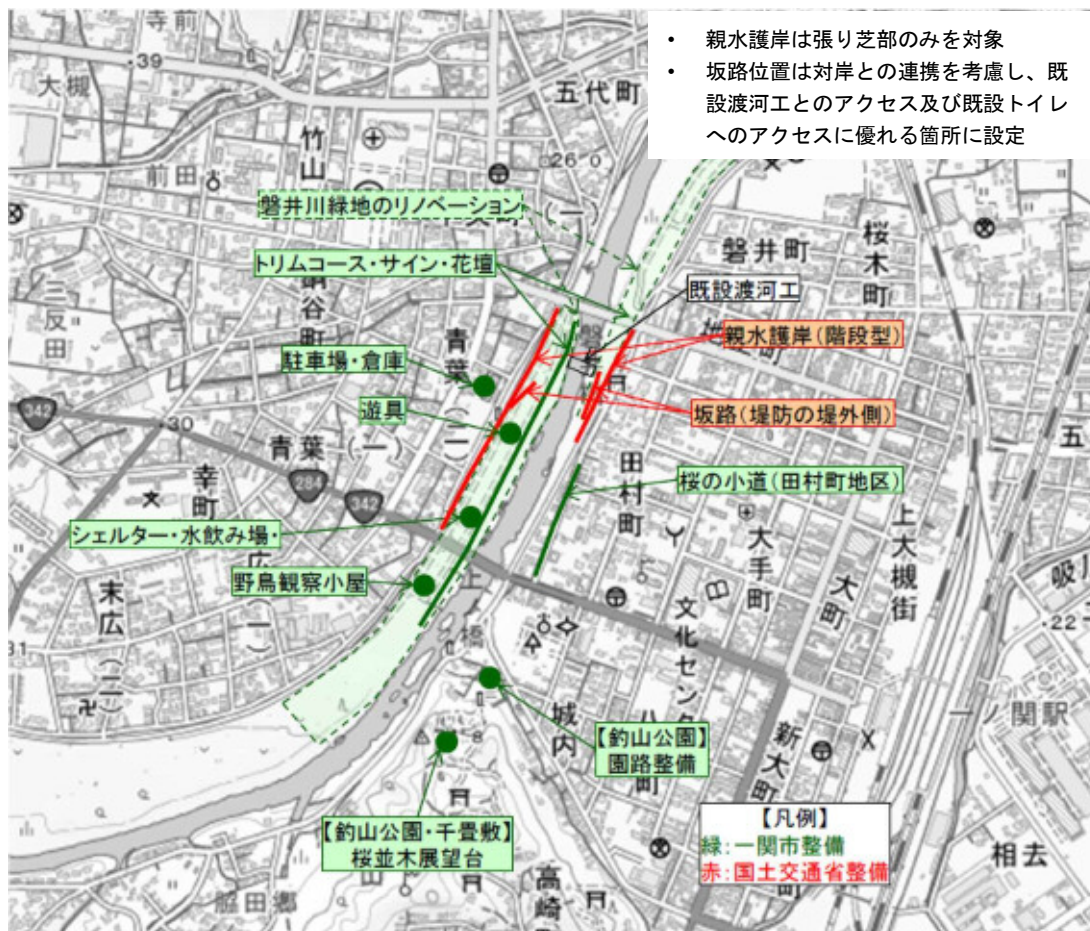
5. ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

①磐井川緑地周辺エリア整備

2. 整備概要

■整備箇所（位置図：1/25,000）



- ・ 親水護岸は張り芝部のみを対象
- ・ 坂路位置は対岸との連携を考慮し、既設渡河工とのアクセス及び既設トイレへのアクセスに優れる箇所に設定

■整備概要

【国整備】

- ◆ 階段型護岸（堤防護岸）の整備
- ◆ 堤外地への坂路の設置
- ◆ 既設階段への手摺の設置

【市整備】

- ◆ 磐井川緑地のリノベーション ※高水敷・堤防
多目的広場、ゲートボール場、トリムコース、サイクリングコース、シェルター、花壇、水飲み場、サイン、倉庫、野鳥観察小屋、駐車場等
- ◆ 釣山公園園路整備等
遊歩道・園路の整備、心字ヶ池の環境整備、千畳敷桜並木展望台設置等
- ◆ 桜の小道（田村町地区）整備
釣山公園駐車場までの遊歩道整備

■整備イメージ



磐井橋上流の整備イメージ



磐井橋下流の整備イメージ



上の橋下流の整備イメージ



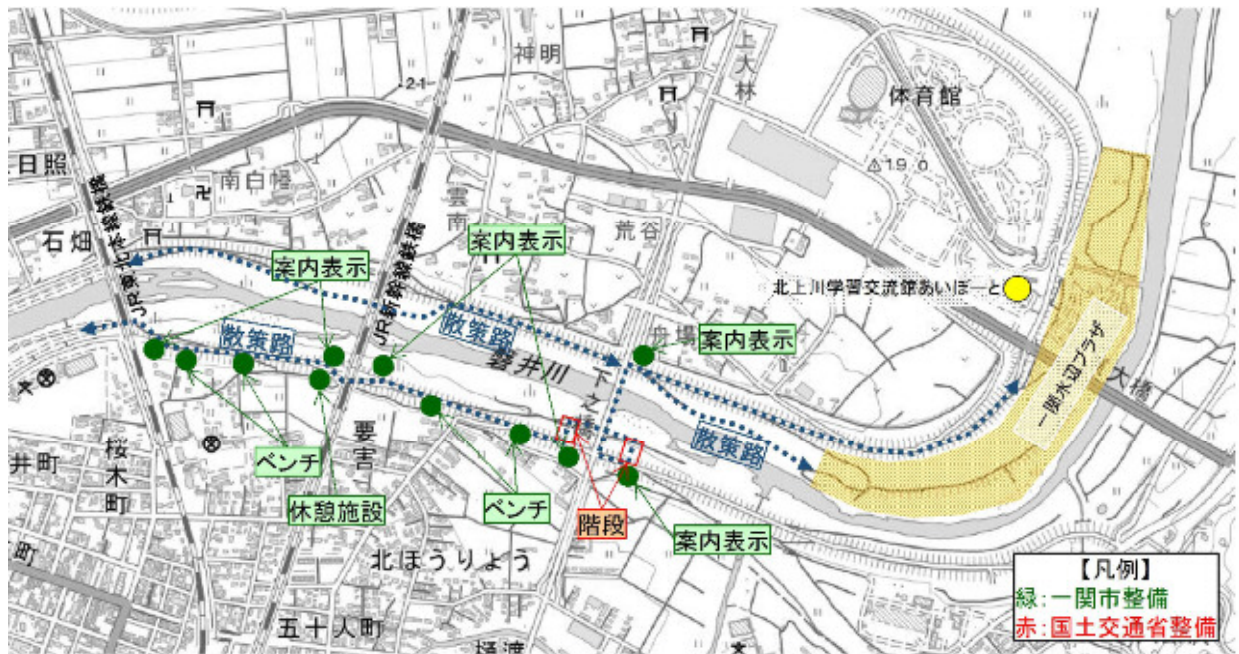
キッチンカーによる出店イメージ

1. 整備内容名

②要害・中里エリア整備

2. 整備概要

■整備箇所（位置図：1/25,000）



■整備概要

【国整備】

- ◆ 堤防堤外地側への階段の設置
- ◆ 散策路の整備

【市整備】

- ◆ ベンチ（休憩施設）、サイン等の整備・設置

■整備イメージ



階段の整備イメージ



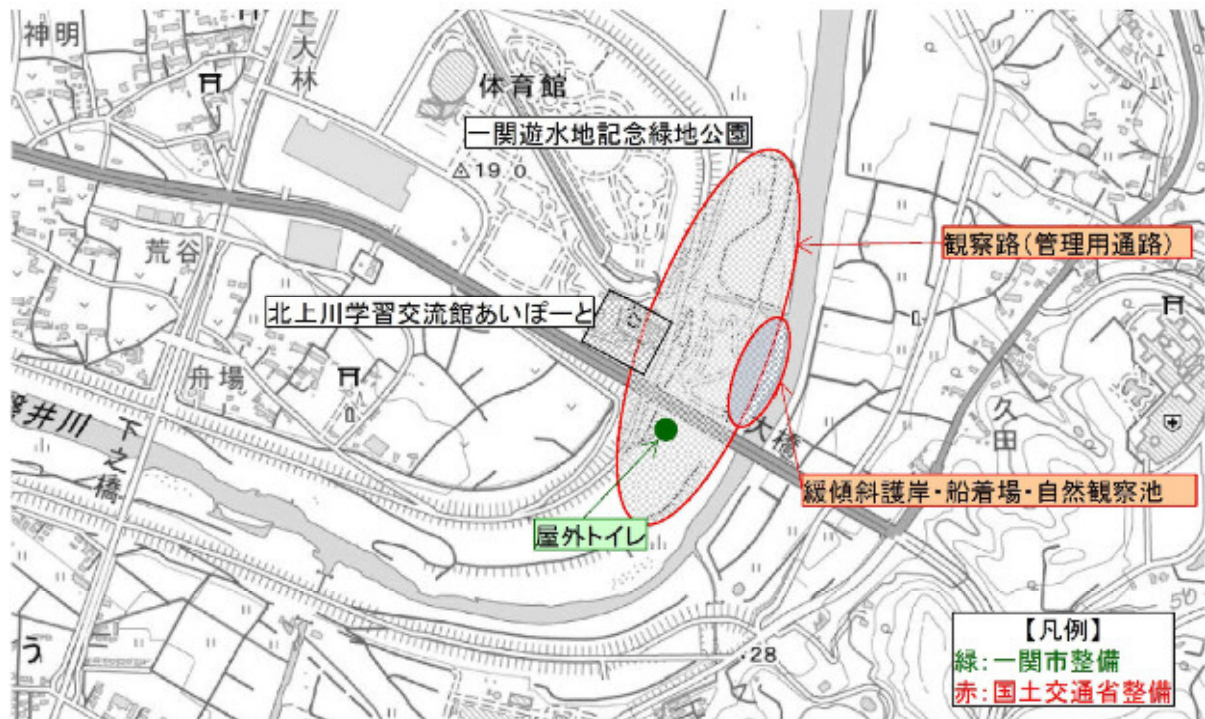
ベンチの整備イメージ

1. 整備内容名

③一関水辺プラザエリア

2. 整備概要

■整備箇所（位置図：1/25,000）



■整備概要

【国整備】

- ◆ 緩傾斜護岸の整備
- ◆ 船着場の整備
- ◆ 自然観察池の整備
- ◆ 観察路（管理用通路）の整備

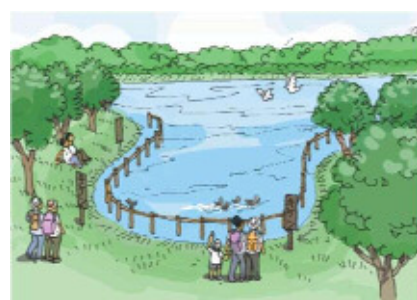
【市整備】

- ◆ 屋外トイレ

■整備イメージ



緩傾斜護岸・船着場の
整備イメージ



自然観察池の整備イメージ

1. 整備内容名

④一関遊水地内湛水池エリア整備

2. 整備概要

■整備箇所（位置図：1/25,000）



■整備概要

【国整備】

多目的公園の整備

- ◆ アクセス道路・散策路（管理用通路）の整備
- ◆ 階段型護岸（堤防護岸）の整備
- ◆ 広場の整備
- ◆ 駐車場の整備

【市整備】

多目的公園の整備

- ◆ 緑地整備（植樹を含む）
- ◆ トイレ、照明灯（便益施設）等整備

■整備イメージ



多目的公園のイメージ

6. 整備の必要性、有効性

整備予定箇所は、JR一ノ関駅から徒歩10分、一関ICから車で10分の磐井川緑地を含む上下流約5kmの磐井川区間と一関遊水地です。

磐井川緑地は、右岸に一ノ関駅付近から商業地および城下町の面影を残す歴史・文化資源が多くあり、左岸はジョギングコースやイベント会場として、市民に親しまれています。

また、一関遊水地は、昭和22年カスリン台風及び23年アイオン台風の洪水による大水害を契機に計画され、昭和47年に事業着手された遊水地で、市民の生命・財産を守るとともに、普段は農耕地として活用されているほか、関連して整備された北上川学習交流館「あいぼーと」や一関遊水地記念緑地公園は周辺の大規模商業施設などとともに市民生活を豊かにしています。

しかし、一関遊水地事業や磐井川堤防改修事業は市民の生命・財産を守る一方で、人と川を分断し、まちと河川空間の関係が希薄となっている区間も存在することから、親水空間の整備が求められています。

また、地区内の観光資源の活用においては周辺地域の世界遺産「平泉」や巖美溪などへ向かう通過地点に留まっている現状とともに、郊外への大規模商業施設の立地や高齢化による中心市街地の空洞化も顕著であり、かつての賑わいを取り戻すための市街地活性化が求められています。

このような中で、磐井川堤防改修事業を契機として、平成21年度から国・市・市民によるワークショップが繰り返し開催され、磐井川を活用した「かわまちづくり」の必要性について意見交換が行われてきました。

また、一関商工会議所からは「まちは公園」をコンセプトにした「歩きたくなるまち」「緑のあるまち」「安全・安心なまち」の実現による市街地活性化が提言されています。

このようなことから、一関遊水地事業と磐井川堤防改修と併せて、河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を図るとともに、これと一体的な「まち」と「かわ」を結び付ける整備によって新たな活用を進められるようにすることで、河川改修の観点および地域活性化の観点から、相乗効果が期待できます。

7. 整備の実現方策

◆ 関連事業の整備計画

< 磐井川緑地整備 >

「一関市都市計画マスタープラン」に基づき、釣山公園や磐井川緑地などの、公園・緑地の管理と機能の充実に努め、水と緑の拠点として位置づけるとともに回遊ルートの設定など、水と緑のネットワークの形成を図ります。

整備にあたってはワークショップ等の意見をふまえ、四季を通じて市民が憩い、集え、楽しめる場として、親水空間の確保、生態系の保全などに努めます。かわまちづくりとの一体的な整備により、親水性を活かした魅力的な緑地公園の整備が図られます。

< 桜の小道整備 >

整備済みの「歴史の小道」や磐井川堤防改修事業にともなう市道の切り替えにあわせて整備を進めている「桜の小道」を中心に、中心市街地の文化的・歴史的施設や公共公益施設等を結び、歩行者が安全にゆったりと中心市街地を散策できる、回遊ネットワークの形成を図ります。

< 多目的公園整備 >

一関遊水地の地内湛水池の広大で平坦な土地を活用した多目的公園の整備により、「一関市都市計画マスタープラン」に掲げる総合体育館や遊水地記念緑地公園等と一体となったスポーツやレクリエーションに親しみながら健康づくりができる保健活動拠点の形成を図ります。

整備にあたっては整備後の活用と管理運営方策を「一関地区かわまちづくり協議会」やワークショップで十分に検討しながら進めるものとします。

< 一関遊水地事業 >

一関遊水地は昭和 22 年カスリン台風及び 23 年アイオン台風の洪水による大水害を契機に調査・検討を開始し、昭和 47 年に事業計画を立案、昭和 49 年から工事を着手しました。

磐井川は、一関遊水地と一体として整備が進められ、現在、JR 磐井川橋梁から上の橋上流区間の堤防改修が進められています。

◆ 整備工程

種別	事業者	事業内容	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
施設整備	一関市	利用施設等整備	← 設計 →				
				← 整備 →			
基盤整備	国土交通省	基盤整正・親水護岸等整備	← 測量設計 →				
				← 整備 →			

8. 推進体制

◆ 関係者の役割分担と実施体制

2009年～2010年にかけて、市民が中心となり「磐井川かわづくりワークショップ」が開催され、磐井川河川敷内の利用について意見交換を行いました。2013年からは河川敷・桜並木を含む周辺市街地を対象とする「磐井川まちづくりサロンワークショップ」が展開され、市民と行政の協働により、磐井川を含む一関市街地全体のまちづくりについて意見交換がなされました。

これらの成果やメンバーを基礎として、市民、関係団体、民間事業者、学識経験者等で構成する「一関地区かわまちづくり協議会」を設置し、本計画を策定したものです。

同協議会が中心となって、今後の整備や整備後の利活用及び維持管理を推進します。

9. 有効利用および維持管理

①施設の利用に関する計画

商業関係者や環境活動関係者などが活動する地域特性を活かし、現在も行われている各種イベント・活動をより発展的・有機的に展開するとともに、新たに企画することで、四季を通じて日常的に利用者を増加させ、地域活性化につなげます。

◆イベント

○バルーンフェスティバル、もちサミット等の既存イベントを広域的・有機的な内容として発展的に企画し、開催します。

○いものこ会、チェリーロード祭などの堤外地で行われていたイベントを復活開催するほか、近傍の堤内地で開催されるイベントと連携して堤外地の整備空間を活用します。

○広大で自由度の高い堤外地の整備空間（多目的公園）を活用して、周辺の施設とも連携し、水辺音楽祭や、スポーツイベントなどを新規開催します。

◆カフェ

○近隣の飲食店などと連携して、桜堤を活用したオープンカフェの社会実験を行います。

◆環境学習

○既存の施設や流域の施設・団体と連携した水辺触れ合い学習会、野鳥観察会等を開催します。

②維持管理計画（基本方針、地域の関係者と河川管理者との役割分担）

◆日常的な管理

○日常的な施設管理・活用等については、協議会を通じて地元市民・民間事業者・一関市が実施します。

○イベントやカフェなどを展開し、収益を管理に活用します。

○協議会もしくは関連組織の河川協力団体への登録を進めます。

◆利用施設管理

○利用のための各施設の管理は一関市が実施します。

◆河川管理施設管理および基盤復旧

○低水護岸や高水敷部分の管理や水害等で基盤が損なわれた場合の復旧は国土交通省が行います。

10. 特徴

城下町の面影を色濃く残す歴史・文化資源の多くは、一ノ関駅から磐井川までの区間に存在しており、かわまちづくりにより回遊性を高めることで、これらの資源と磐井川周辺を歩いて廻る魅力的なまちあるきの機会を創出することが可能となります。

また、一関水辺プラザの北上川学習交流館「あいぽーと」と連携した水辺と触れ合う学習、体験機能の充足化と、一関遊水地地内湛水池を有効活用した多目的広場の整備により、年間を通じて屋外スポーツやアクティビティ体験等に活用します。

特に、湛水池エリアは住宅地から離れた広いスペースであることから、この場所でしか開催できないような、水辺音楽祭やドローン・バルーン等の競技会場等としての活用も期待されます。

更にこれらを、磐井川堤防を活用した安全な歩行者等動線として連携させることで、城跡の釣山公園から一関遊水地地内湛水池までの、川の自然とまちの歴史・文化が融合した魅力的な回廊となることが期待されます。

11. その他特筆すべき事項

◆磐井川堤防桜再生

昭和26年

S22カスリン台風、S23アイオン台風による大災害から復興を記念して2,000本の桜と梅が植樹された。

伐採前の桜並木（平成25年撮影）



平成22年9月30日

一関市長より岩手事務所長に対し「現状の景観がイメージできる桜並木の再生への配慮」についての要望

平成22年10月13日

『磐井川桜再生会議』を発足。『現在の桜の遺伝子を経く桜を再生させ、新たな水害復興の証』とすることを決定。

平成23年2月

『磐井川桜再生計画』策定

平成23年2月18日

『磐井川堤防改修に伴う桜並木の復元を考える会』により現存する桜から穂木を採取し、苗木の育成を行う。



平成23年9月10日

伐採前に一関市民により『桜お別れ会』を開催した。



平成25年8月29日～

平成26年2月12日

磐井川かわづくりサロンを開催し、植樹をはじめとするまちづくりイメージを作成し、一関市へ提言した。

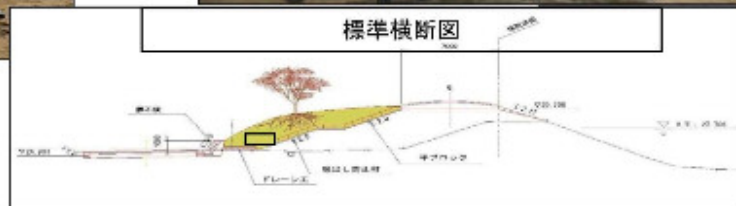


平成26年3月25日

サロンの提言を受けて「植樹祭」を開催すると共に、関係者に「磐井川まちづくりサロン検討結果報告会」を開催。



- 磐井町地区桜植樹祭開催：平成26年3月
- 青葉町地区桜植樹祭開催：平成30年3月
- 田村町地区桜植樹祭開催：平成31年3月



◆まちあるきリーフレット「一関さんぽ」（一関市観光協会 2019.5）

城下町探訪の案内として、釣山公園や旧沼田家武家住宅、酒の民俗文化博物館などを廻るコースを推奨しています。

城下町探訪と文人ゆかりの地めぐり

● 大槻三賢人像 (E-4,I)

オランダ語の入門書「蘭学階梯」を出版した大槻玄沢。開国論者として知られる儒学の翻訳。国語学者でわが国最初の辞書「言海」を発刊した文彦。いわゆる大槻三賢人として日本の近代化に貢献した。



● 彫塑家・長沼守敬生誕の地 (D-4,I)

● 高平小五郎像 (D-4,I)

一関藩医田野崎三徳の三男。外国に20余年も駐在し日本近代外交の一翼を担った人物。特にアメリカボーツマスでの日露戦争講和会議では、全権委員として条約調印に当たり、その後はアメリカ大使として老練な外交手腕を発揮し日米友好促進に努めた。



● 釣山公園 (D-4,I)

市街地に隣接した小高い丘にある憩いの場。春には満開の桜、秋には真っ赤な紅葉が人々を楽しませてくれる。

● 藩主・田村邸裏門跡 (D-4,I)

● 旧沼田家武家住宅 (D-3,I)

江戸時代後期に一関藩家老職を務めた沼田家の住宅を復元。創建は18世紀の初頭から中ごろと推定され約三百年の歴史を有する。



● 酒の民俗文化博物館／いちのせき文学の蔵 (D-3,I)

大正時代の酒蔵を活用した建物で、1,600点を超える酒造りの道具の中からその一部を展示し、昔ながらの酒造りを紹介している。また館内にはいちのせき文学の蔵を併設。井上ひさし、島崎藤村など「世徳の一」にゆかりのある文学者・作家の資料をはじめ一関出身の文人の資料が展示されている。



● 浦しま公園 (E-3,I)

水天宮通りの中ほどにある緑がすがすがしい公園。昔の料亭の跡で、格調高い日本庭園が往時を偲ぼせる。



● 大町通り散策 (E-3,I)

一関はジャズの街～ジャズ喫茶紹介～

BASIE [ベイシー]	Morrison [もりぞん]	ROYCE [ロイス]
生以上の音楽と酒方のある會に集れる。日本はもとより世界中のファンがよく知られたジャズ喫茶。	店主の人柄そのままに、やわらかい音につつまれた安らぎの空間。やさしくジャズがしみこんでいきます。	[ROYCE]には、違うコルトメンが居る。あれ??と驚いてもう一曲。もう一曲と、つい風俗になってしまふ。
☎13:00-24:00(21:00後) ☎火・水曜日 ☎0191-237331	☎12:00-22:00 ☎木曜日 ☎0191-239392	☎13:00-18:00 ☎火曜日 ☎0191-234665



◆ウェブサイト「いちのせき観光 NAVI」（一関市観光協会）

城下町散歩のモデルコースとして、旧沼田家武家住宅や酒の民俗文化博物館の他、老舗和菓子店や甘味処などを紹介しています。

一関市公式観光サイト **いちのせき観光 NAVI** ICHINOSEKI SIGHTSEEING NAVIGATOR

観光パンフレット 日本語 English 한국어 中文繁體 中文简体

ホーム 交通アクセス お問い合わせ 検索

特集 MODEL COURSE 観光スポット イベント 泊まる 食べる 特産品おみやげ

ツイート いいね! 778 シェア B1ブックマーク 8 言語を選択

ホーム > モデルコース > 04.一ノ関駅周辺城下町散歩

モデルコース
04
一ノ関駅周辺
城下町散歩

江戸時代の武家屋敷と蔵のある風景。
一関藩三万石の面影を色濃く残す城下町。一関のんびり気の向くまま歩いてみたくなる。情緒豊かな町並です。

コース内容

総所要時間 約4時間5分

JR一ノ関駅 徒歩約14分 → 釣山公園 徒歩約9分 → 旧沼田家武家住宅 徒歩約4分 → 世福の一酒の民俗文化博物館 →

徒歩約4分 → Jazz Spot BASIE 徒歩約2分 → 松栄堂総本店 徒歩約3分 → 浦しま公園 徒歩約3分 → 大福屋 徒歩約9分 → JR一ノ関駅